

が重要であり、導入段階の今こそ具体的な検討が必要である。

そこで本研究では、教員目線からではなく「児童・生徒がアクティブになるためには」という視点から、社会構成主義の立場から教科教育におけるアクティブ・ラーニングを捉え直し、真のアクティブ・ラーニングに必要な条件・課題について検討することを目的とした。

方 法

(アクティブ・ラーニングの批判的再構築)

(1) 失敗事例からの示唆

図1のとおり、児童・生徒側の原因として「発言しない」「浅薄な議論」「派生知識に無関心」、教員側の原因として「学習目的を伝達していない」「段取り不足」「介入の過不足」「振り返りを実施していない」などの指摘がある。逆に言えば教員が実施前に十分な準備をする、実施当初には学習目的を伝達する、実施中は必要な介入を行う、実施後は振り返りをする必要があるのである。

一方で失敗事例では「こうすると失敗する」ということは理解できるものの、「こうすると絶対に成功する」という点までは至ることができない。失敗から学ぶというだけでなく、更なる検討が必要である。

(2) 論点整理からの示唆

論点整理のとおり、「社会に開かれた教育課程を実現する」、すなわち教育内容と社会との接続、あるいは教育方法の点では地域や社会との連携が重要となってくる。また教科教育において「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を明確にするためには、カリキュラム・ポリシーや教育内容・方法の明確化が必要となってくる。「アクティブ・ラーニングは形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではなく、子供たちの質の高い深い学びを引き出すことを意図するもの」であり、「それを通してどのような資質・能力を育むか」という観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指す」ものであるから、「どのような資質・能力を育むか」という観点から教育内容・方法を明確化する必要があるのである。

「主体的・対話的で深い学び」を各教科教育で実現するには、児童・生徒の主体性が欠かせない。この際、児童・生徒自身の学ぶことへの興味・関心を理解しておくほか、児童・生徒が自己のキャリア形成の方向性と関連づけること（すなわち教員がその支援を行うこと）も重要となる。すなわち、過去・現在から未来への橋渡しである。

また、対話場面では児童・生徒同士や対教員だけでなく、地域や社会との関係も重要になる。

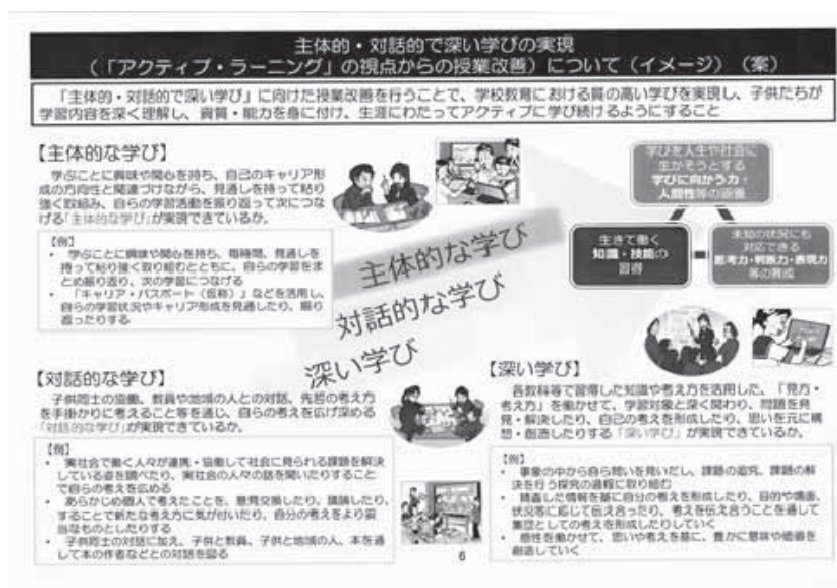


図2 効果的なアクティブ・ラーニングのイメージ (部会補足資料)

すなわち、学校生活から社会生活への橋渡しである。

さらに効果的・効率的なアクティブ・ラーニングを目指すには、キャリア教育との関係性に十分に配慮する必要もある。例えば、気温とアイス・かき氷の売り上げは数学の関数として表すことができるかもしれないし、広告表現の面白さと国語表現の面白さは関連するだろう。職場体験に代表される課外活動だけでなく、各教科教育においても「現在の興味・関心を未来につなぐ」「現在の学びと未来の仕事をつなぐ」「現在の生活と未来の生活をつなぐ」視点が欠かせない(図2:教育課程企画特別部会資料より)。

(3) 社会構成主義アプローチからの示唆

社会構成主義は「人は、周囲から与えられた意味あるいは自らが与えた意味に従って社会を理解し、それを再構成し、それに基づいて思考・行動する」という、人間理解に関するメタ理論である。別の言い方をすれば、個人の学習は他者や環境との相互行為によって成り立つ。即ち周囲の人からの評価や周囲の人たちとの関係の中で、その行為の意味が個人の中に形成されていくのである。そして人は、その大きな物語に沿って人生を歩んでいくこととなる。重要な他者あるいは自らの主要な体験の影響を受けて、

その人らしい思考・行動パターンが形成されていく(図3)。

仮に「自分はダメだ」と自己評価をしたとすると、それに合った「親によく怒られた」「学校の教師にもよく怒られた」「成績も良くなかった」「友達も少なかった」というような個々のエピソード(小さな物語)を想起し、自分の評価を正当化(大きな物語化=ドミナント・ストーリー)していくだろう。「自分はダメだ」という大きな物語を作った児童・生徒は、「ダメな自分は、人に迷惑をかけないように発表や質問はなるべくしないようにしよう」「リーダーにはならないでおこう」「人の後ろにいて迷惑をかけないようにすればいいや」と重要な経験をしないうちに人生を送るかもしれない(図4)。人生の重要な選択も流れに任せたり人に任せたりして、「自分からは選択しない」ようにするかもしれない。

人には誰でもいつかどこかに「好きなもの/こと」「楽しかったこと/場面/時間」「感心・感動したこと」「頑張ったこと」がある。それらを想起して「自分にとってどういう人生を送ると幸せ/満足と思えるか」「これからどういうもの/こと/価値観を大切にしていきたいか」「そのためにはこれから何をしたらいいか/何をしたいか」と考える(=語られていない自己の中にある未来のための資源を探す)ことで、

いろいろなエピソードはあるが

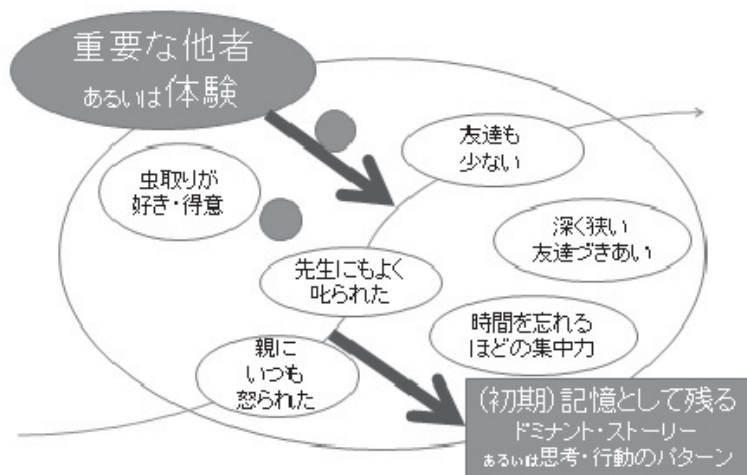


図3 社会構成主義アプローチによる人間理解

「僕はダメな人間だ」と思うと

「ダメな自分」を探し(構築し)始める

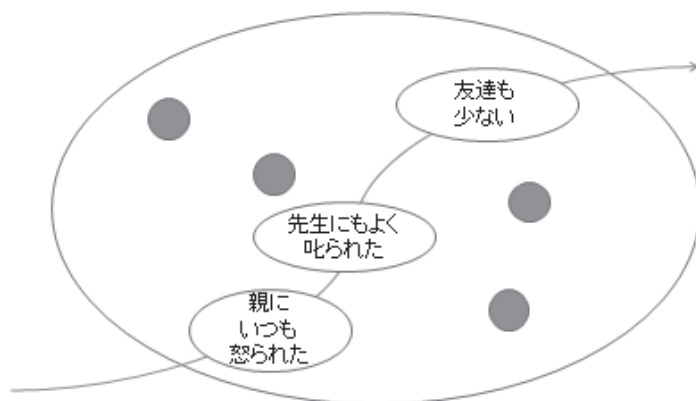


図4 僕はダメな人間だと思うと

未来に向けたキャリア構築をイメージするのが社会構成主義キャリア・カウンセリングの考え方である。即ち、環境(=社会的背景)への適応にはもちろん配慮するが、自分自身の感情や気持ち(=生物的・心理的背景)にも適応していくことを重視していこうとする考え方である。

児童・生徒の中にも「自分はダメだ」「自分の意見など大したことがない」「グループワークは成績のいい人に任せておけばいい」あるいは「議論などしても無駄だ」「教師が喜ぶような建前を話しておけばいい」と考えてしまう者はいるだろう。社会構成主義の立場からすれば、そういう児童・生徒に対して、「自分の意見を持つことは大切だ」「その意見を言うことで、周りとのコミュニケーションができる/周りも助かる」「議論することには意義がある」「本音で語り合うことに意味がある」という経験をしてもらって、「アクティブに教科教育に参加することは自分のタメになる」「アクティブ・ラーニングに積極的に参加したい」と思わせることが児童・生徒を支援する教員として必要な姿勢・態度なのである。

結 果

教員から与えるアクティブ・ラーニングに対し、アクティブにならない児童・生徒は少なくない。その原因としては教員側の準備不足のほ

か、児童・生徒側の消極的な意識・積極的に参加しにくい環境という側面もある。

アクティブ・ラーニングを成功させるためには、児童・生徒の積極化(アクティブ化)が必須であり、そのためには「それが自分(児童・生徒)にとってどんな意味(メリット)があるのか」ということが児童・生徒自身が明確に理解することが必要である。その理解を支援するのは教員の役目であり、実施前の十分な準備、実施当初の学習目的の伝達、実施中の必要な介入、実施後の振り返りが必須である。また日々の教育を通じて児童・生徒の「成長したい」「成長のためには積極的(アクティブ)に教育を受けることが重要である」という気持ちや考えを活性化させる必要がある。積極性がバカにされない環境設定が重要となる。

考 察

現在のアクティブ・ラーニングに関する議論は、ややもすると「型」(対話やグループディスカッションなどの技法・方法論)に中心が置かれがちであるが、論点整理も指摘するとおり、児童・生徒に提供される実施前・実施中・実施後の「過程(プロセス)」、そして児童・生徒が成長に向けた意識を持つための支援が重要となる。教員自身の理解も重要であるが、児童・生徒の心の内を想像しながら、児童・生徒自身が

「教育は自分にとって必要だ」と思う必要があり、児童・生徒同士が「積極的に活動する必要がある」という環境を創り出し、教員がそれを支援する必要がある。

児童・生徒を理解するためには、社会構成主義的な人間理解が助けとなり、また実施前・実施中・実施後の具体的な「過程（プロセス）」を構成するのにも、積極性を育む環境を構築していくのにも、社会構成主義の考え方は役立つ。

今回の研究では社会構成主義を踏まえたアクティブ・ラーニングに関する課題の整理という理論面の整理が中心となったが、次期学習指導要領においてアクティブ・ラーニングが1つの柱となることが見込まれる中、今後は実践を踏まえた更なる理論のブラッシュ・アップと、関係者による更なる議論が必要である。

参考文献

- 藤本光司・林徳治・葛崎偉（2010）. 「大学授業におけるアクティブラーニングの教育実践（1）―「アスリートのためのアカデミック・スキルズ」を対象として―」日本教育情報学会第26回年会論文集(26), 182-185
- 溝上慎一（2007）. 「アクティブ・ラーニング導入の実践的課題」. 名古屋高等教育研究, 第7号, 269-287
- 文部科学省教育課程企画特別部会（2015）. 『論点整理』. 東京：文部科学省
- 大橋健治（2010）. 「アクティブ・ラーニングの試み」. 筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要, 第5号, 217-227
- 須永一幸（2010）. 「アクティブ・ラーニングの諸理解と授業実践への課題―activeness 概念を中心に―」. 関西大学高等教育研究, 第1号, 1-11
- 渡部昌平編著（2015）. 『社会構成主義キャリア・カウンセリングの理論と実践』. 東京：福村出版
- 渡部昌平（2016）. 『はじめてのナラティブ／社会構成主義キャリア・カウンセリング』. 東京・川島書店